

第42回 県政に関する世論調査の結果について

平成23年12月16日
千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2247

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は本年度1回目の調査で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に、本年8月に郵送法で実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康と福祉、千葉県の農産物、市民活動団体の活動、地方分権、千葉県の施策・政策、広報・広聴活動、防災に関する取り組みについて県民の意識調査を行いました。

1 調査の設計

- (1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。
- (4) 調査方法 郵送法(郵送配付一郵送回収)
- (5) 調査時期 平成23年8月11日～8月31日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,607(53.6%)

3 調査の項目

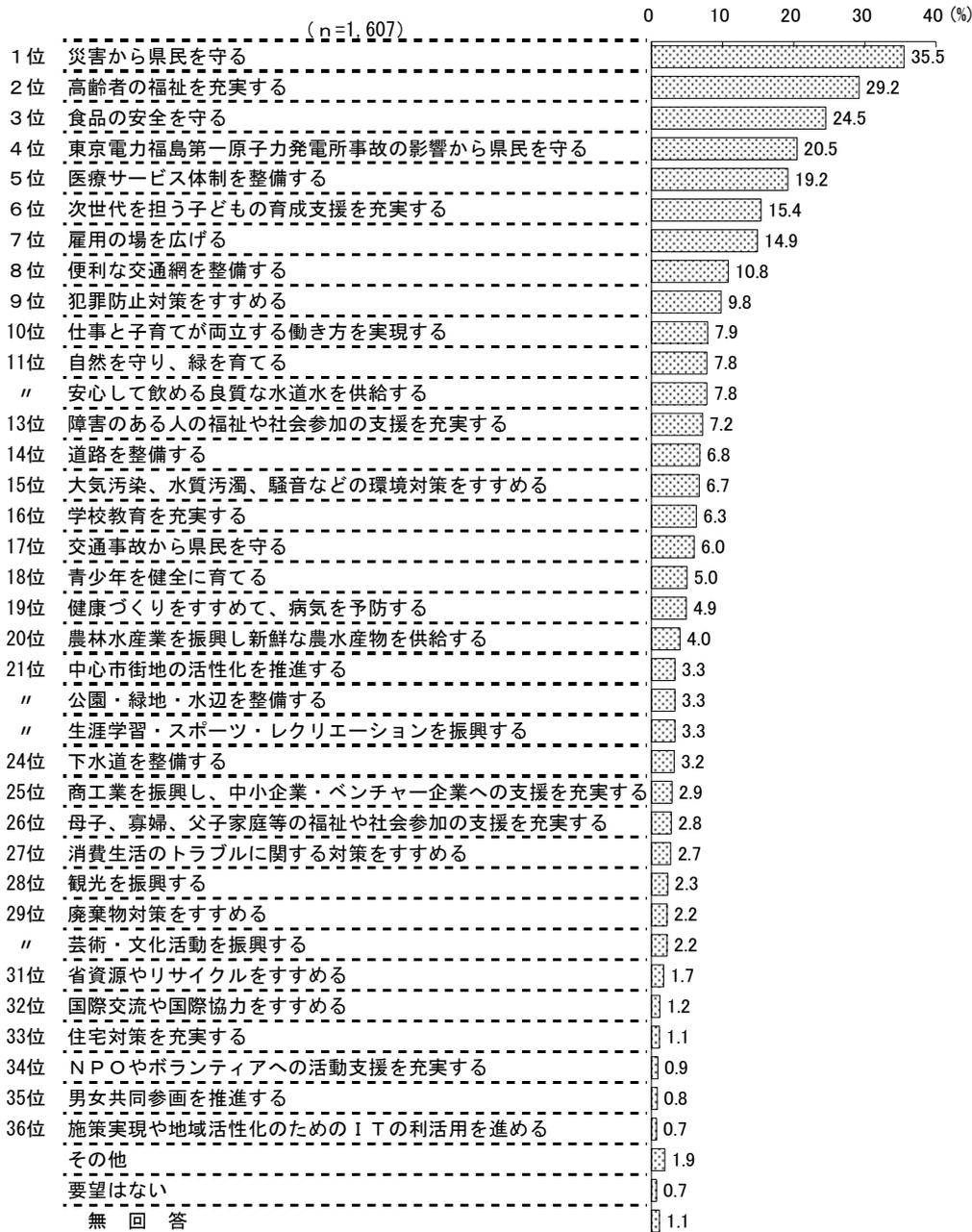
- (1) 県民意識調査
 - ①環境と生活について
 - ②健康と福祉について
 - ③千葉県の農産物について
 - ④市民活動団体の活動について
 - ⑤地方分権について
 - ⑥千葉県の施策・政策について
 - ⑦広報・広聴活動について
 - ⑧防災に関する取り組みについて
- (2) 県政への要望

4 調査の結果

1 県政への要望

(1) 県政への要望

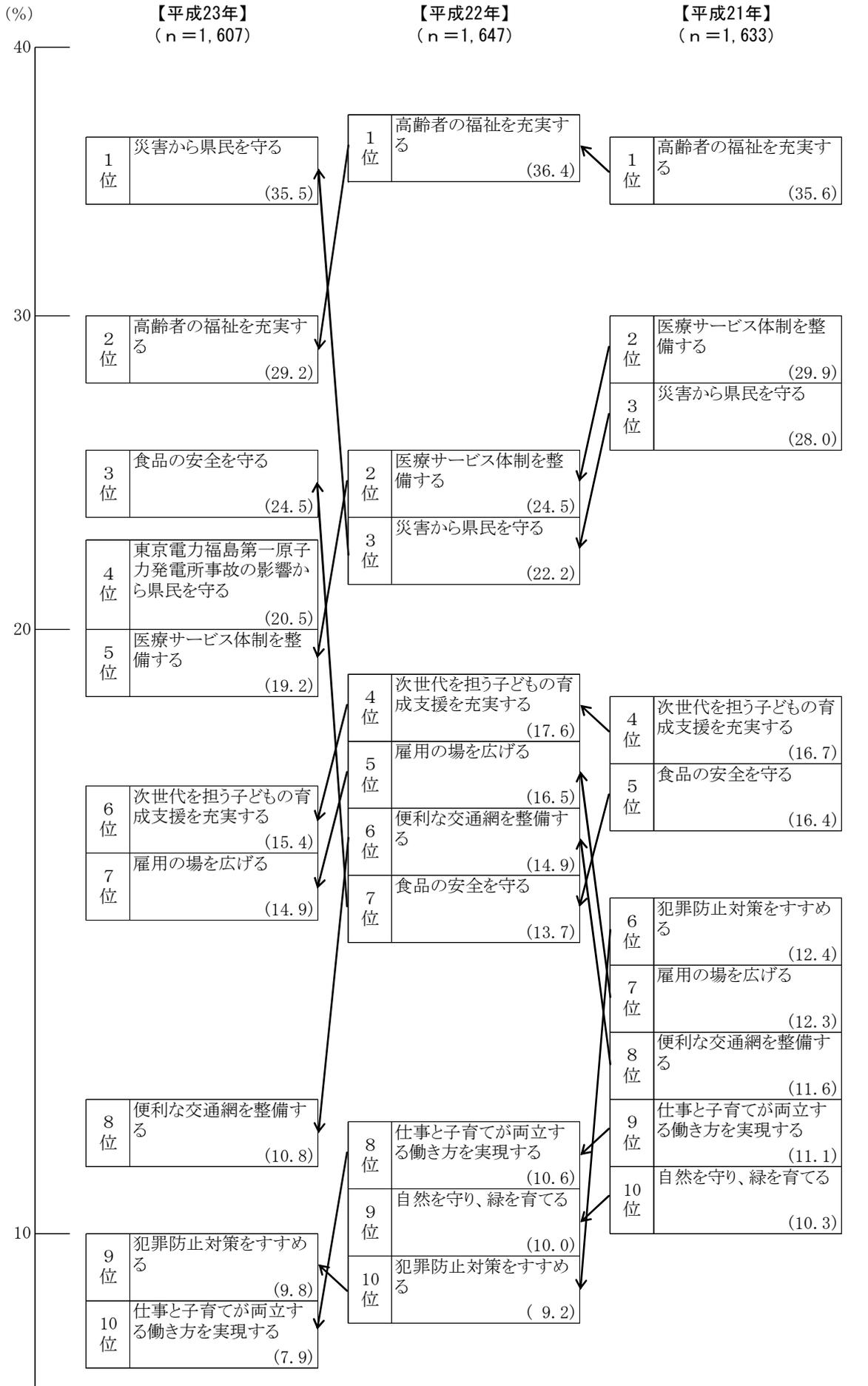
(複数回答：3つまで)



今回調査の主な特徴

- 「災害から県民を守る」(35.5%)が3割台半ば、「高齢者の福祉を充実する」(29.2%)が約3割、「食品の安全を守る」(24.5%)が2割台半ばであり、県民の要望が特に高い。
- 「災害から県民を守る」が22年度3位(22.2%)から1位(35.5%)となっている。「高齢者の福祉を充実する」が21年度1位(35.6%)、22年度1位(36.4%)から2位(29.2%)と順位を下げている。
- 「食品の安全を守る」は、22年度7位(13.7%)から3位(24.5%)と順位を上げている。「医療サービス体制を整備する」は、21年度2位(29.9%)、22年度2位(24.5%)から5位(19.2%)と順位を下げている。
- 新規項目の「東京電力福島第一原子力発電所事故の影響から県民を守る」(20.5%)が4位になった。

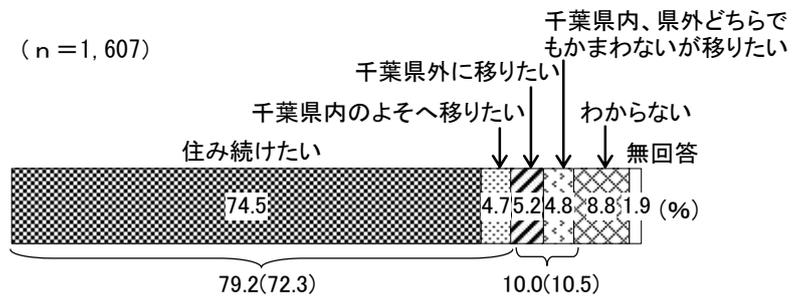
■ 県政への要望／上位 10 項目の推移



2 環境と生活について

(1) 今後の居住意向

現在お住まいの地域に、今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(74.5%)が7割台半ば、「千葉県内のよそへ移りたい」(4.7%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい』が79.2%で約8割である。一方、「千葉県外に移りたい」(5.2%)、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(4.8%)を合わせた『移りたい』が10.0%で1割となっている。

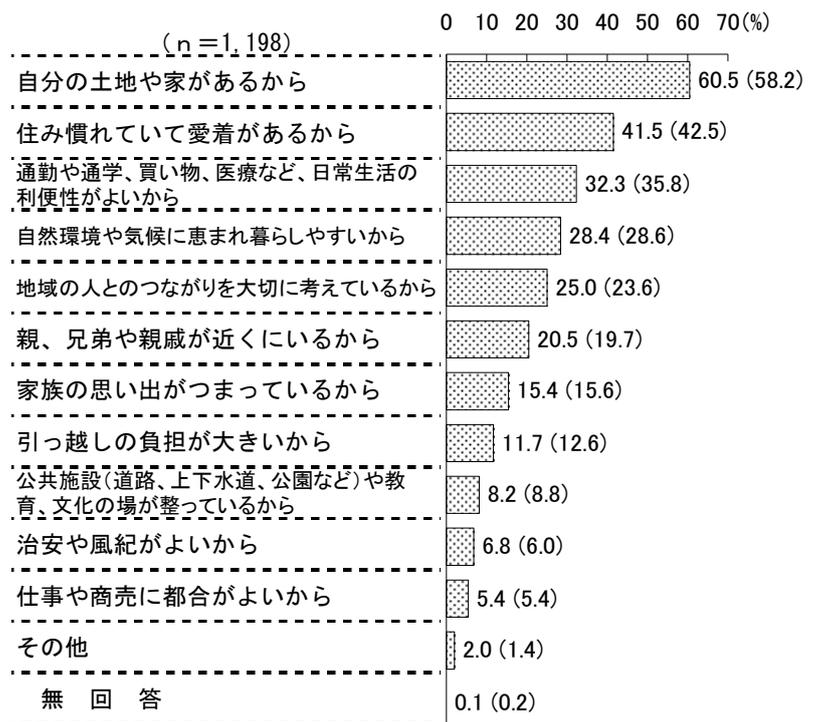


注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

(複数回答：3つまで)

「住み続けたい」と回答した 1,198 人を対象に、住み続けたい理由を 3 つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(60.5%)が6割、以下、「住み慣れていて愛着があるから」(41.5%)、「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性がよいから」(32.3%)が続く。

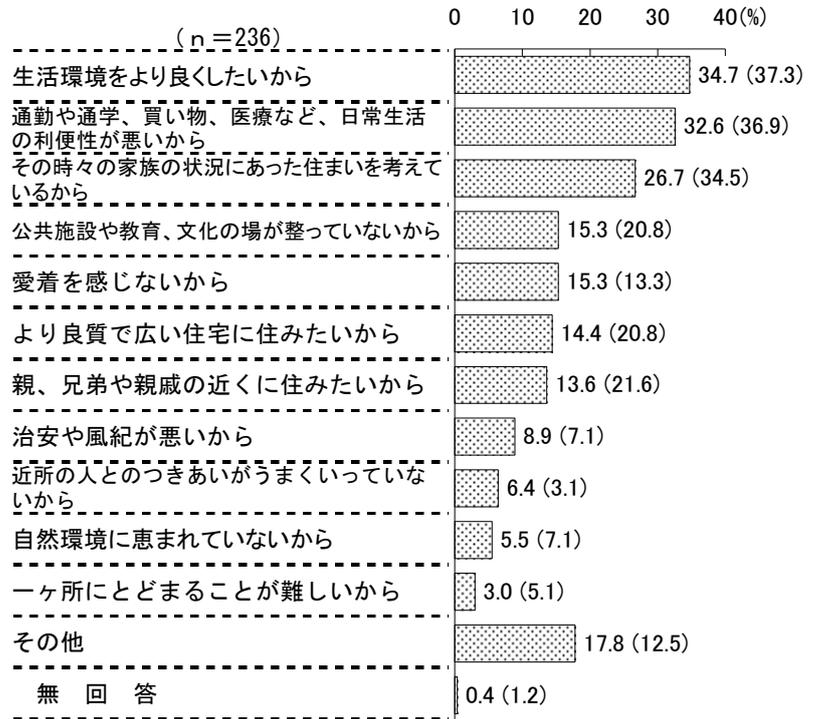


注) () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(1-2) 移りたい理由

(複数回答：3つまで)

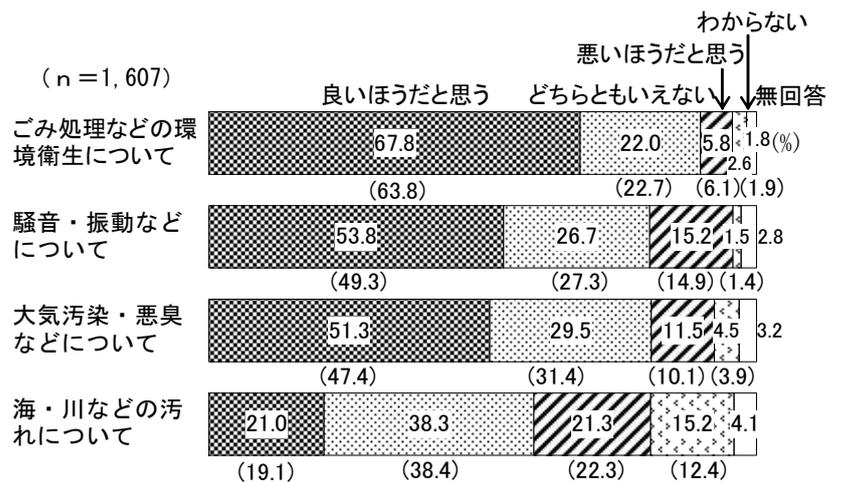
「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した236人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「生活環境をより良くしたいから」(34.7%)が3割台半ばで最も高く、以下、「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性が悪いから」(32.6%)、「その時々家族の状況にあった住まいを考えているから」(26.7%)と続く。



注) () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

(2) 生活環境について

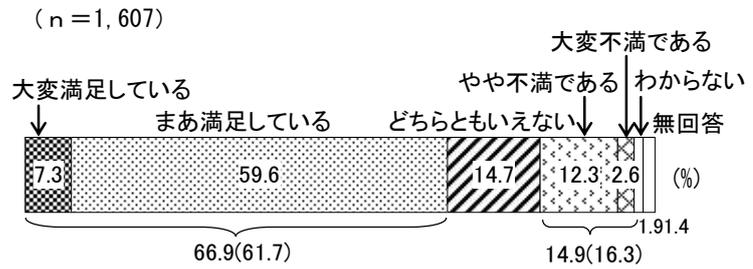
生活環境に関する4つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは「ごみ処理などの環境衛生について」(67.8%)で約7割となっている。以下、「騒音・振動などについて」(53.8%)と「大気汚染・悪臭などについて」(51.3%)が5割を超えている。一方、「海・川などの汚れについて」は、「悪いほうだと思う」(21.3%)が「良いほうだと思う」(21.0%)をわずかに上回っている。



注) 下段の () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

(3) 生活環境全般の満足度

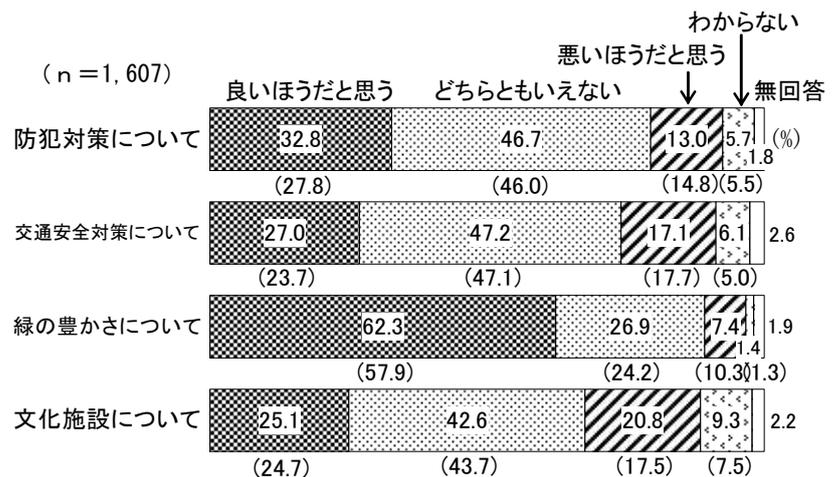
生活環境全般に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(7.3%)と「まあ満足している」(59.6%)を合わせた『満足している』(66.9%)は6割台半ばとなっている。一方、「やや不満である」(12.3%)と「大変不満である」(2.6%)を合わせた『不満である』(14.9%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

(4) 自然・周辺環境について

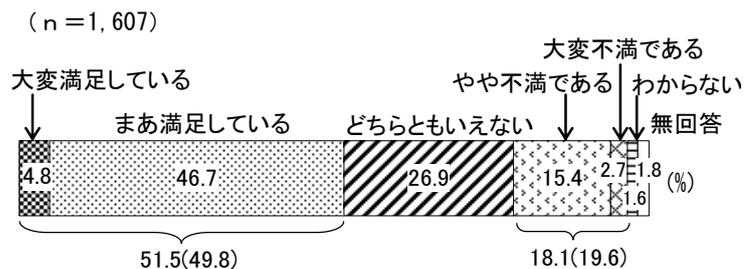
自然・周辺環境に関する4つの項目についてそれぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは〈緑の豊かさについて〉(62.3%)が6割を超え、次に〈防犯対策について〉(32.8%)が3割を超えている。一方、それ以外の2項目については、「良いほうだと思う」がいずれも2割台となっている。



注) 下段の () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

(5) 自然・周辺環境全般の満足度

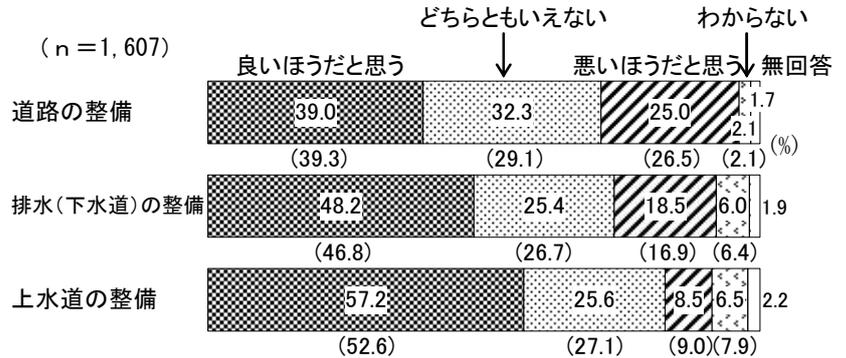
自然・周辺環境に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(4.8%)と「まあ満足している」(46.7%)を合わせた『満足している』(51.5%)は5割を超えている。一方、「やや不満である」(15.4%)と「大変不満である」(2.7%)を合わせた『不満である』(18.1%)は2割弱となっている。



注) 下段の () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

(6) 基盤整備について

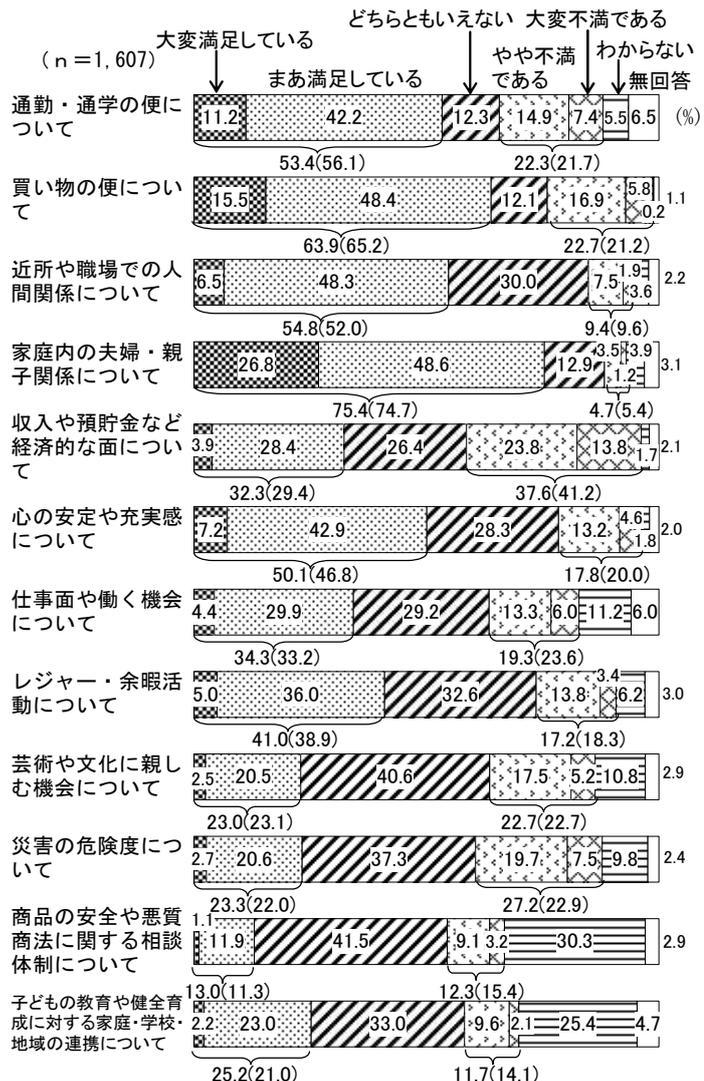
基盤整備に関する3つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、〈上水道の整備〉(57.2%)で約6割となっている。次いで、〈排水(下水道)の整備〉(48.2%)が約5割となっている。〈道路の整備〉は「良いほうだと思う」(39.0%)が約4割になっている。



注) 下段の () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

(7) 現在の生活の満足度

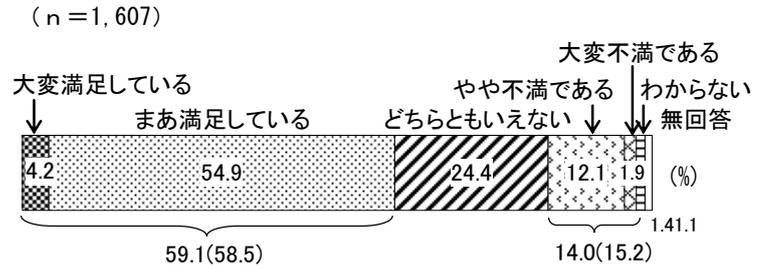
現在の生活に関する12個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』が最も高いのは、〈家庭内の夫婦・親子関係について〉(75.4%)で7割台半ばとなっている。以下、〈買い物の便について〉(63.9%)、〈近所や職場での人間関係について〉(63.9%)、〈近所や職場での人間関係について〉(54.8%)と続く。「やや不満である」と「大変不満である」を合わせて『不満である』とすると、12項目中10項目で『満足している』が『不満である』より高い中、〈収入や預貯金など経済的な面について〉、〈災害の危険度について〉の2項目は、『不満である』が『満足している』を上回っている。



注) 下段の () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

(8) 住生活全般の満足度

現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）に関する満足度を聞いたところ、「大変満足している」（4.2%）と「まあ満足している」（54.9%）を合わせた『満足している』（59.1%）は約6割となっている。一方、「やや不満である」（12.1%）と「大変不満である」（1.9%）を合わせた『不満である』（14.0%）は1割台半ばとなっている。

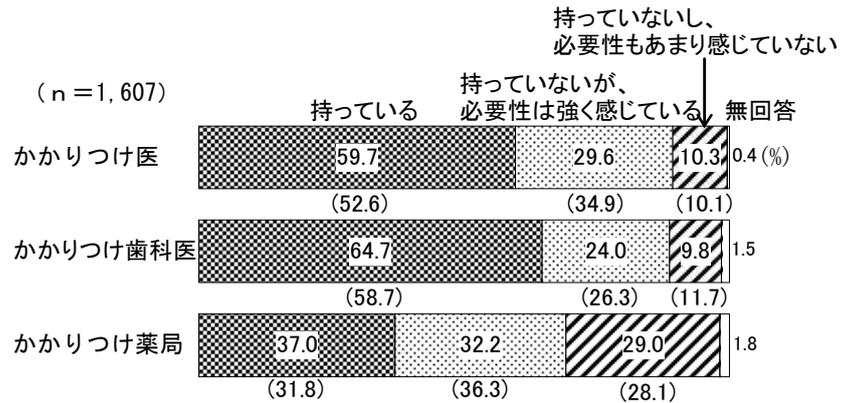


注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

3 健康と福祉について

(1) かかりつけ医の有無

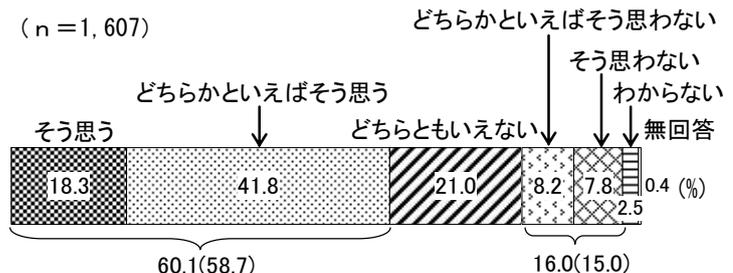
かかりつけの医師、歯科医、薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は歯科医（64.7%）で6割台半ば、医師（59.7%）が約6割であるが、薬局（37.0%）では約4割である。また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は薬局（32.2%）で3割を超え、医師（29.6%）で約3割となっている。「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は薬局（29.0%）で約3割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(2) 地域での生活

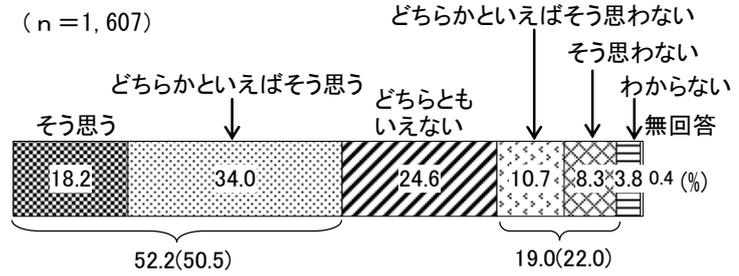
地域において、明るく楽しく生活していると思うか聞いたところ、「そう思う」（18.3%）と「どちらかといえばそう思う」（41.8%）を合わせた『そう思う』（60.1%）が6割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」（8.2%）と「そう思わない」（7.8%）を合わせた『そう思わない』（16.0%）は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(3) 健康づくりに取り組むことができる環境

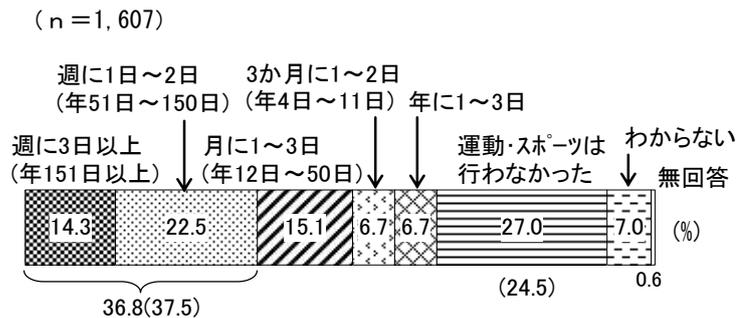
自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(18.2%)と「どちらかといえばそう思う」(34.0%)を合わせた『そう思う』(52.2%)は5割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.7%)と「そう思わない」(8.3%)を合わせた『そう思わない』(19.0%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(4) 健康づくりのための運動

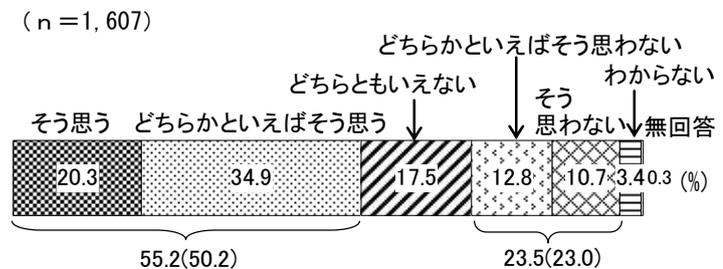
健康づくりなどのために1年間に何日くらい運動やスポーツを行ったかを聞いたところ、「週に3日以上(年151日以上)」(14.3%)、「週に1日~2日(年51日~150日)」(22.5%)を合わせた『週1日以上運動した』(36.8%)は3割台半ばとなっている。一方、「運動・スポーツは行わなかった」(27.0%)は約3割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(5) 安心して受診できる医療体制

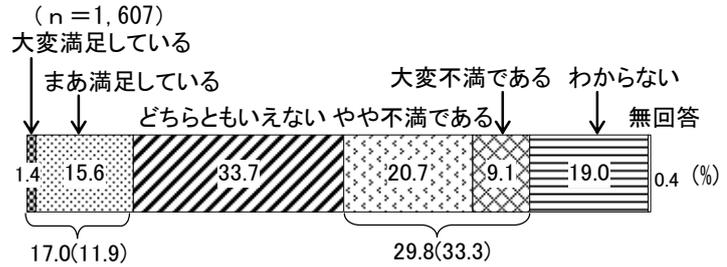
住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(20.3%)と「どちらかといえばそう思う」(34.9%)を合わせた『そう思う』(55.2%)は5割台半ばである。一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.8%)と「そう思わない」(10.7%)を合わせた『そう思わない』(23.5%)は2割台半ばである。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(6) お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度

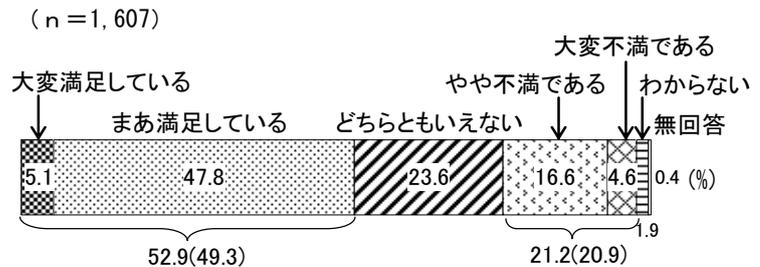
お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度を聞いたところ、「大変満足している（1.4%）」と「まあ満足している」（15.6%）を合わせた『満足している』（17.0%）が約2割となっている。一方、「やや不満である」（20.7%）」と「大変不満である」（9.1%）を合わせた『不満である』（29.8%）は約3割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

(7) 自分や家族の健康についての満足度

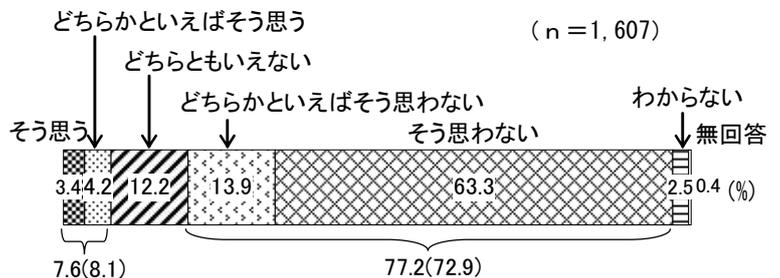
自分や家族の健康についての満足度を聞いたところ、「大変満足している」（5.1%）」と「まあ満足している」（47.8%）を合わせた『満足している』（52.9%）は5割を超えている。一方、「やや不満である」（16.6%）」と「大変不満である」（4.6%）を合わせた『不満である』（21.2%）は2割を超える。



注) 下段の () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

(8) 理不尽な理由による差別等

自分が理不尽な理由によって差別等の辛い目に遭っていると思うか聞いたところ、「そう思う」（3.4%）」と「どちらかといえばそう思う」（4.2%）を合わせた『そう思う』（7.6%）は1割未満となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」（13.9%）」と最も多い「そう思わない」（63.3%）を合わせた『そう思わない』（77.2%）は約8割となっている。

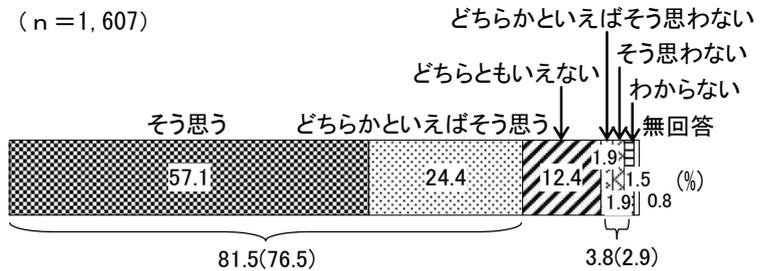


注) 下段の () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

4 千葉県の農産物について

(1) 千葉県産農産物の購入意向

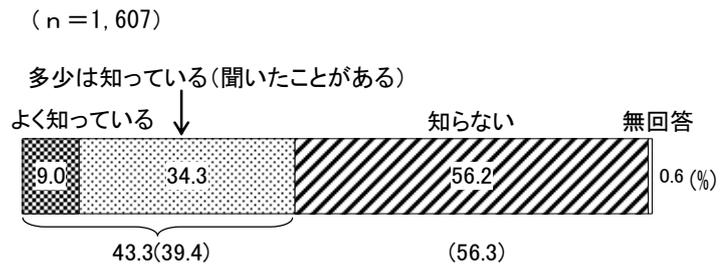
千葉県産農産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(57.1%)が約6割で最も高く、「どちらかといえばそう思う」(24.4%)は2割台半ばである。これらを合わせた『そう思う』(81.5%)は8割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(1.9%)と「そう思わない」(1.9%)を合わせた『そう思わない』(3.8%)は1割未満になっている。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(2) 「ちばエコ農産物」の認知度

「ちばエコ農産物」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(9.0%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(34.3%)を合わせた『知っている』(43.3%)は4割台半ば。一方、「知らない」(56.2%)は5割台半ばとなっている。

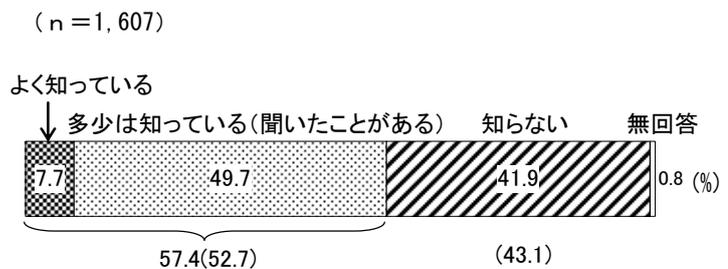


注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

5 市民活動団体の活動について

(1) 市民活動団体の活動の認知度

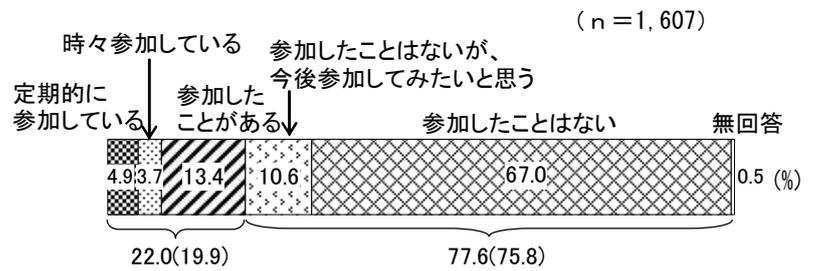
市民活動団体の活動の認知度を聞いたところ、「多少は知っている(聞いたことがある)」(49.7%)は約5割で最も高く、「よく知っている」(7.7%)は約1割である。これらを合わせた『知っている』(57.4%)は約6割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(2) 市民活動団体の活動への参加経験

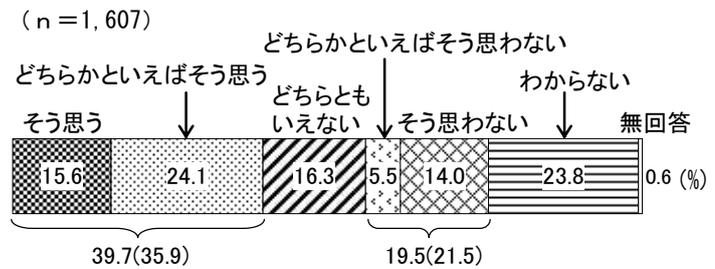
市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」(4.9%)と「時々参加している」(3.7%)、「参加したことがある」(13.4%)を合わせた『参加している』(22.0%)は2割を超えている。一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」(10.6%)は1割、「参加したことはない」(67.0%)は約7割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(3) 市民活動団体の活動の貢献度

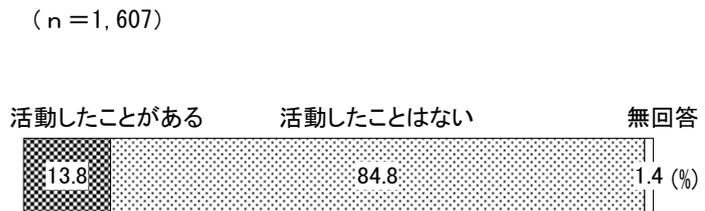
市民活動団体の活動の貢献度を聞いたところ、「そう思う」(15.6%)と「どちらかといえばそう思う」(24.1%)を合わせた『そう思う』(39.7%)は約4割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(5.5%)と「そう思わない」(14.0%)を合わせた『そう思わない』(19.5%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(4) ボランティア活動経験

ボランティアとして活動したことがあるかを聞いたところ、「活動したことがある」(13.8%)は1割台半ばとなっている。一方、「活動したことはない」(84.8%)は8割台半ばとなっている。



(5) 今後のボランティア活動意向

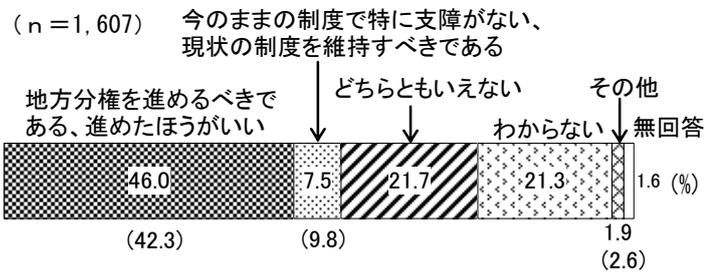
「活動したことはない」と回答した1,363人を対象に、今後のボランティア活動をしてみたいかを聞いたところ、「活動してみたいと思う」(24.3%)は2割台半ばとなっている。一方、「活動してみたいと思わない」(38.4%)は約4割となっている。



6 地方分権について

(1) 地方分権を今後さらに進めていくべきか否か

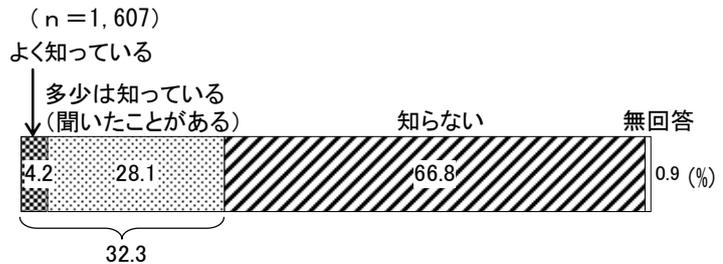
地方分権を今後さらに進めていくべきかどうかを聞いたところ、「地方分権を進めるべきである、進めたほうがいい」(46.0%)は4割台半ばとなっていて、「今のままの制度で支障がない、現状の制度を維持すべきである」(7.5%)は1割未満である。また、「どちらともいえない」(21.7%)、「わからない」(21.3%)は2割を超える。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(2) 「地方分権」による基準変更の認知度

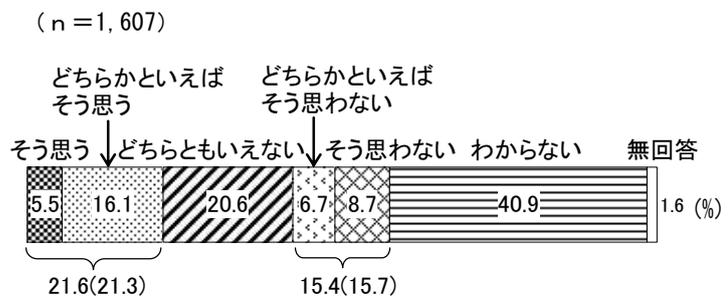
今まで国が定めていた保育所や老人ホームなどの施設の基準を都道府県の条例で定められるようになったことを知っているかを聞いたところ、「よく知っている」(4.2%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(28.1%)を合わせた『知っている』(32.3%)は3割を超えている。一方、「知らない」(66.8%)は6割台半ばである。



7 千葉県の施策・政策について

(1) 県民の視点に立った政策評価に基づく県政運営

政策評価が県民の視点に立った県政運営に役立っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.5%)と「どちらかといえばそう思う」(16.1%)を合わせた『そう思う』(21.6%)は2割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(6.7%)と「そう思わない」(8.7%)を合わせた『そう思わない』(15.4%)は1割台半ばとなっている。また、「わからない」(40.9%)は4割である。

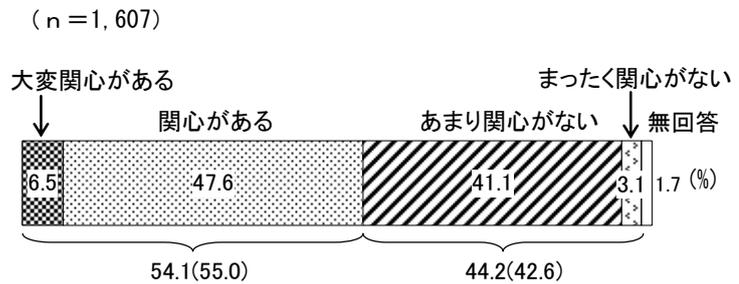


注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

8 広報・広聴活動について

(1) 県の政策や施策などについての関心度

県の政策や施策などについての関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(6.5%)と「関心がある」(47.6%)を合わせた『関心がある』(54.1%)は5割台半ばである。一方、「あまり関心がない」(41.1%)と「まったく関心がない」(3.1%)を合わせた『関心がない』(44.2%)は4割台半ばとなっている。

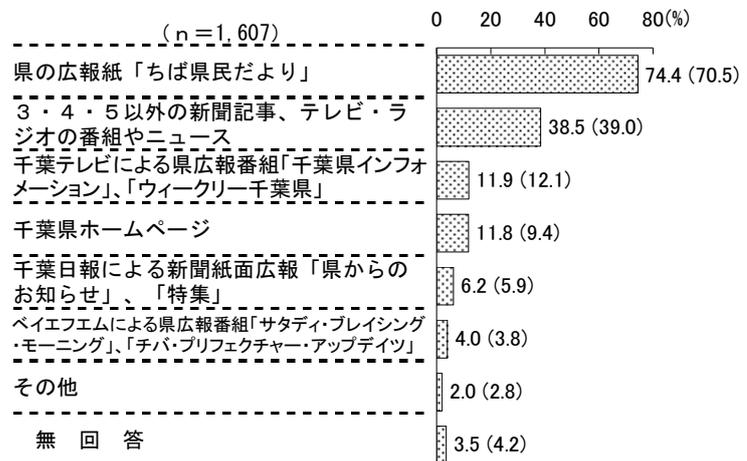


注) 下段の () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

(2) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答：いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県の広報紙『ちば県民だより』(74.4%)が7割台半ばと最も多く、以下、「3・4・5以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(38.5%)が約4割、「千葉テレビによる県広報番組『千葉県インフォメーション』、『ウィークリー千葉県』」(11.9%)が1割を超え続けている。

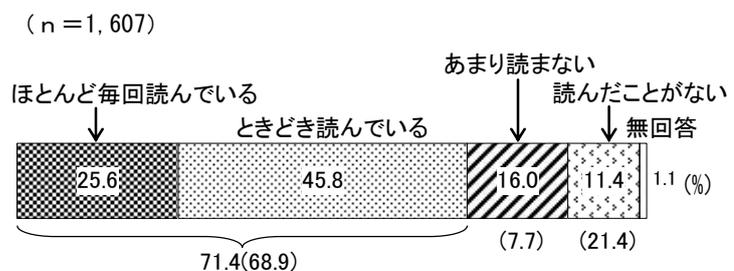


(※) 「3・4・5以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、3・4・5とは、『千葉日報による新聞紙面広報「県からのお知らせ」、「特集」』、『千葉テレビによる県広報番組「千葉県インフォメーション」』、『ウィークリー千葉県』、『ベイエフエムによる県広報番組「サタディ・プレイング・モーニング」』、『チバ・プリフェクチャー・アップデイツ』を指す。

注) () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

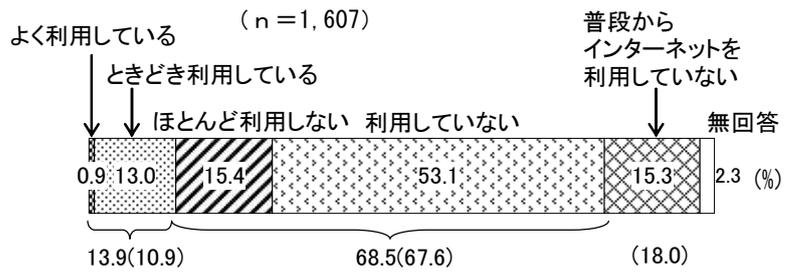
県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいます」(25.6%)は2割台半ばで、「ときどき読んでいます」(45.8%)は4割台半ばで最も多い。これらを合わせた『読んでいます』(71.4%)は7割を超えている。一方、「あまり読まない」(16.0%)は1割台半ば、「読んでいない」(11.4%)は1割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成22年度の調査結果を示している。

(4) 千葉県ホームページの利用頻度

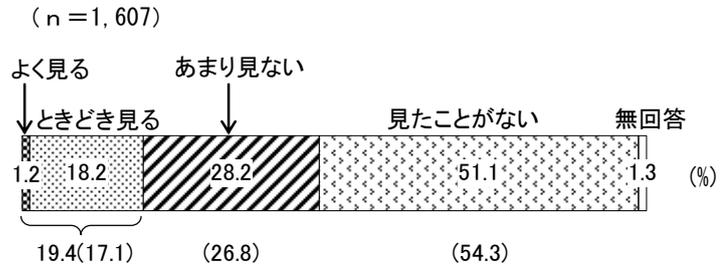
千葉県ホームページの利用頻度を聞いたところ、「よく利用している」(0.9%)、「ときどき利用している」(13.0%)を合わせた『利用している』(13.9%)は1割台半ば。一方、「ほとんど利用しない」(15.4%)と「利用していない」(53.1%)を合わせた『利用していない』(68.5%)は約7割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(5) 県の広報番組の視聴状況

県の広報番組の視聴状況を聞いたところ、「よく見る」(1.2%)と「ときどき見る」(18.2%)を合わせた『見る』(19.4%)は約2割である。一方、「あまり見ない」(28.2%)は約3割で、「見たことがない」(51.1%)は5割を超えている。

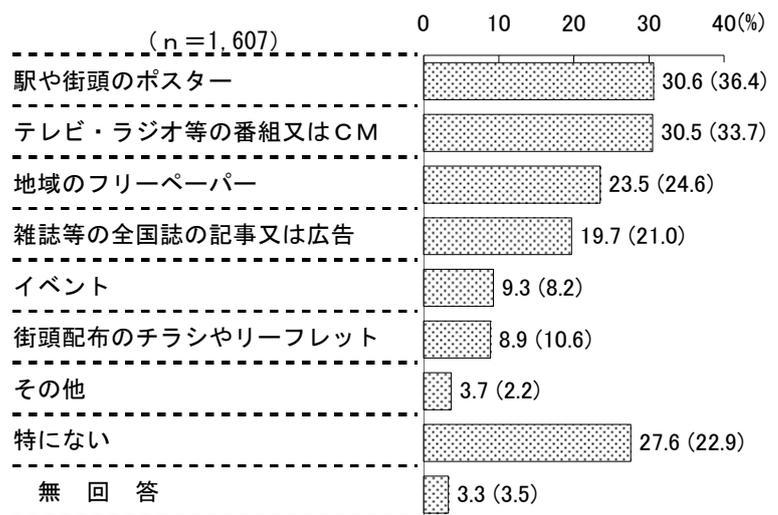


注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(6) 県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況

(複数回答: いくつでも)

県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況を聞いたところ、「駅や街頭のポスター」(30.6%)が3割で最も高くなっている。以下、「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(30.5%)も3割、「地域のフリーペーパー」(23.5%)が2割台半ばで続いている。

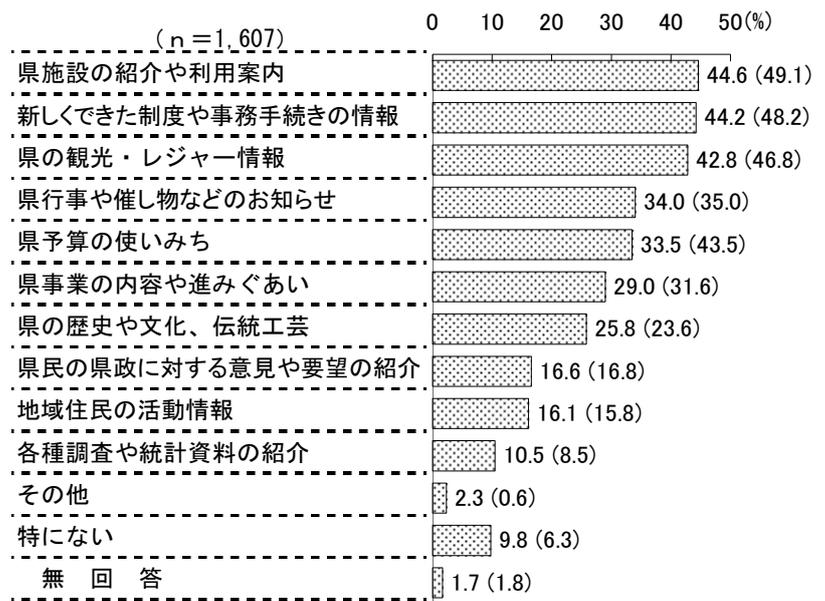


注) () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(7) 県の知りたい情報

(複数回答：いくつでも)

県の知りたい情報を聞いたところ、「県施設の紹介や利用案内」(44.6%)が4割台半ばで最も高くなっている。以下、「新しくできた制度や事務手続きの情報」(44.2%)も4割台半ば、「県の観光・レジャー情報」(42.8%)が4割を超え続いている。

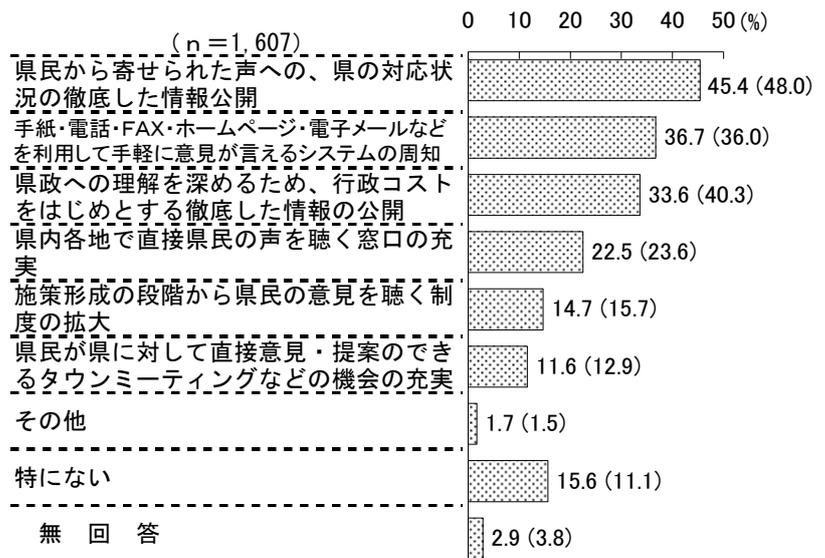


注) () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(8) 県政に対する意見を述べやすくするために必要なこと

(複数回答：3つまで)

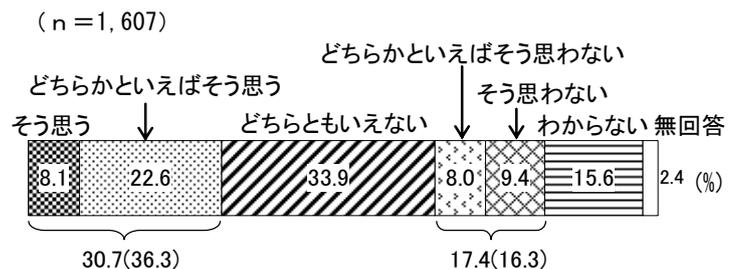
県政に対する意見を述べやすくするために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」(45.4%)が4割台半ばと最も高くなっている。以下、「手紙・電話・FAX・ホームページ・電子メールなどを利用して手軽に意見が言えるシステムの周知」(36.7%)、「県政への理解を深めるため、行政コストをはじめとする徹底した情報の公開」(33.6%)が3割台半ばとなっている。



注) () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(9) 県政への意見の反映

自分の意見を県政に反映させたいと思うか聞いたところ、「そう思う」(8.1%)と「どちらかといえばそう思う」(22.6%)を合わせた『そう思う』(30.7%)は3割となっている。一方、「そう思わない」(9.4%)と「どちらかといえばそう思わない」(8.0%)を合わせた『そう思わない』(17.4%)は約2割である。

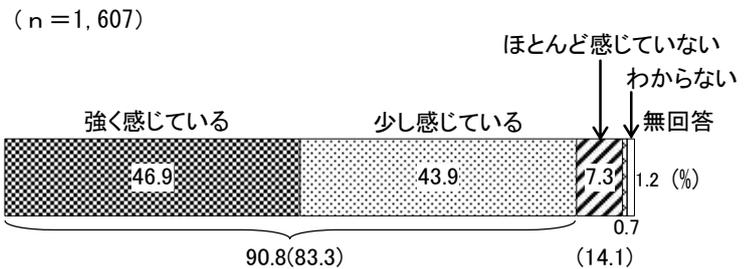


注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

9 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

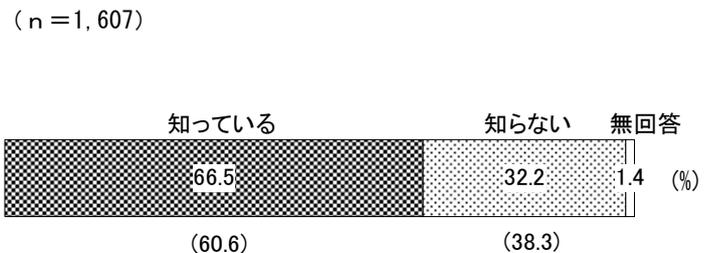
大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(46.9%)と「少し感じている」(43.9%)を合わせた『感じている』(90.8%)は9割となっている。一方、「ほとんど感じていない」(7.3%)は1割未満である。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

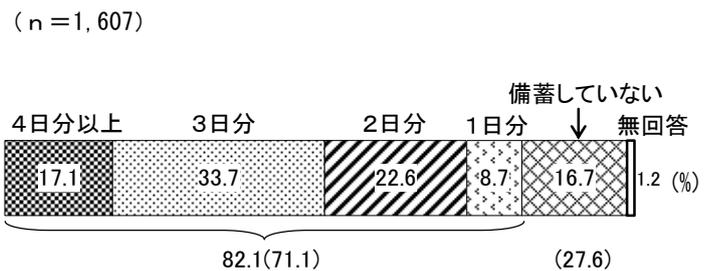
「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度を聞いたところ、「知っている」(66.5%)が6割台半ばとなっている。一方、「知らない」(32.2%)は3割を超える。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(3) 飲料水や食料の備蓄状況

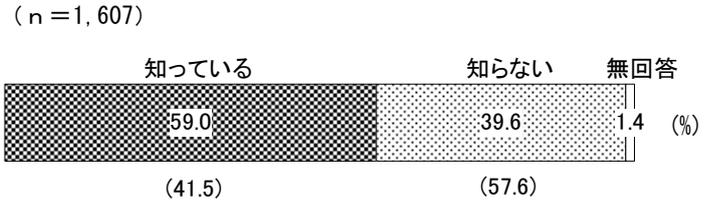
飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(33.7%)が3割台半ば、「2日分」(22.6%)は2割を超え、これに「4日以上」(17.1%)と「1日分」(8.7%)の4つを合わせた『備蓄している』(82.1%)は8割を超えている。「備蓄していない」(16.7%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度を聞いたところ、「知っている」(59.0%)は約6割となっている。一方、「知らない」(39.6%)は約4割となっている。

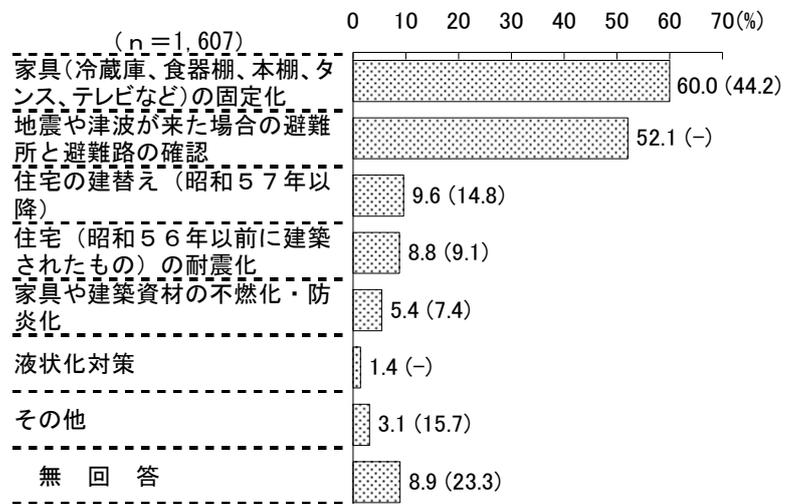


注) 下段の () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(5) 地震の被害を防ぐための対策

(複数回答：いくつでも)

地震の被害を防ぐための対策を聞いたところ、「家具(冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど)の固定化」(60.0%)が6割となっており、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」(52.1%)が5割を超え、「住宅の建替え(昭和57年以降)」(9.6%)が約1割と続いている。

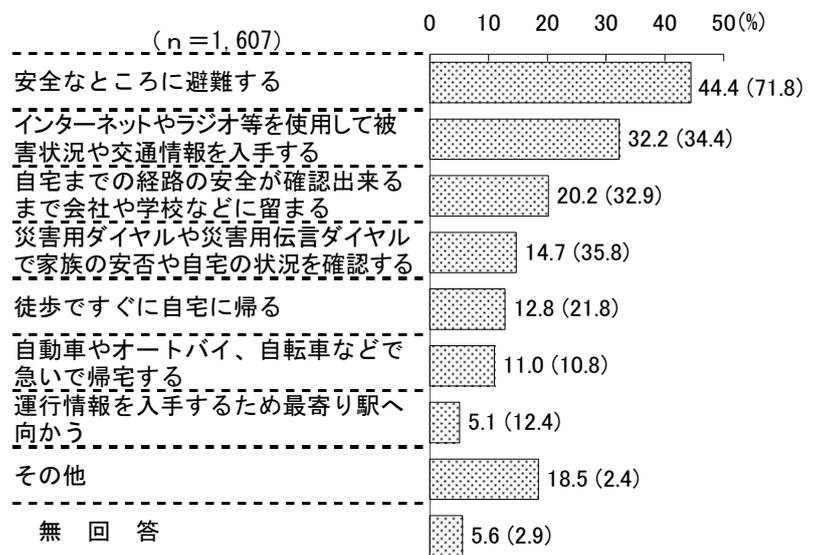


注) () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

(6) 大震災発生直後にとった行動

(複数回答：いくつでも)

大震災発生直後にとった行動を聞いたところ、「安全なところに避難する」(44.4%)が4割台半ば、以下、「インターネットやラジオ等を使用して被害状況や交通情報を入手する」(32.2%)が3割を超え、「自宅までの経路の安全が確認できるまで会社や学校などに留まる」(20.2%)が2割、「災害用ダイヤルや災害用伝言ダイヤルで家族の安否や自宅の被害を確認する」(14.7%)と続いている。



注) () 書きは、平成 22 年度の調査結果を示している。

【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、378人から延べ479件の回答が寄せられた。記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った分野で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に関する要望

○「県」の事業と「市」の事業の区別がつかない。重複があれば共同事業化する等して無駄を排除して欲しい。（男性、30歳代、千葉地域）

■東京電力福島第一原子力発電所事故の影響から県民を守る

○福島原発の事故の影響が県内でもいろいろな所に出ています。農産物等の食品の検査の強化、学校や公共施設等の検査、そしてその結果の公表等を早急にしていただきたいと思います。そして、何よりも皆が安心して暮らせるような、政策を望みます。（女性、50歳代、東葛飾地域）

■便利な交通網を整備する

○バイパス道路などの増設により、地域の交通渋滞の緩和を目指し、着実に計画を進めてほしい。（女性、40歳代、葛南地域）

■県政情報の発信や活動のPRについて

○これを機会に広報誌や広報番組を積極的に見ていきたいと思うので、わかりやすく、魅力のあるものにしていただければと思います。（男性、65歳以上、葛南地域）

■高齢者の福祉を充実する

○一番の行政として行なってもらいたい事は高齢者が安心出来る県政、市政をしてもらいたい。特に年を重ねて来た時自立の生活は困難になるので高齢者住宅、老人ホーム（公立）を建設して行き誰もが入居出来、安心出来る県政を望む。（男性、65歳以上、東葛飾地域）

■道路を整備する

○大震災以降、自転車を利用する人が増え、マナーも悪く、危険を感じる事が増えた。数多くの人々が、自転車を、あたり前に利用する時代なのだから、もっと安全に利用できるように、道路を整備するべきだと思う。（女性、40歳代、葛南地域）

■交通事故から県民を守る

○国道だから県道だからと区別されていても地域で暮らす者にとっては生活道路に変わりはなく、危険な箇所への安全対策が遅れていると感じています。（女性、50歳代、北総地域）

■災害から県民を守る

○東海沖地震が発生した際の千葉県への影響はどのくらいになるのか、など情報が欲しい。東北地震で液状化してしまった。地域について、今後の改善点や注意点など、不動産について新しく入居がわかりやすくできるように何かないだろうか。（男性、30歳代、葛南地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○都市部と、それ以外の地域で、差がない生活ができるようにしてください。特に学校施設の差はかなり大きく、古い机やイス、アルマイトの食器を使っている学校の子たちは気の毒です。千葉県を、日本を背負って立つ子どもの育成に必要なもの、ことに予算をとってください。お願いします。（女性、40歳代、香取地域）

【世論調査に関する意見（抜粋）】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、176人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

- 難しい専門用語が出てくるので、とてもわかりにくいと思いました。注釈が欲しいと思いました。「労務職」とは、どんな職業があてはまるのですか？（女性、30歳代、葛南地域）
- この世論調査で、自分の県政への意識が高まったのを感じました。自分のような学生、あるいは未成年者からも、積極的にアンケートをとるのはいかがでしょうか。県政への関心が高まると思います。（男性、20歳代、葛南地域）
- 質問に対して、解答に○をつけるのに、もう少し、幅広く枠を広げてもらいたい。職業・年齢・性別・独身・既婚等により、答えるのにかなり無理がある。（男性、65歳以上、葛南地域）
- すべての方々に適切なアンケートを行うことは困難を極めるとは思いますが、年代により各項目の関連性等、理解が大変ではないかと感じるのは私だけではないと思います。もう少しアンケート項目を少なくする方法はないものかと感じました。（男性、65歳以上、夷隅地域）
- 難しいかもしれませんが、県民の基本的な考え方を問うような（経済、環境、福祉等、何を重視するかなど）形で、全体像がつかまるといい気がしました。あまり細かすぎると、個々の政策は優先順位をつけられても方向性がみえにくいような気がします。（男性、40歳代、千葉地域）
- 回答はもう少し詳細の方が良い。この調査の対象者は住民基本台帳から3,000名を無作為で選んだとありますが、全県民の数から見ればもう少し対象者を増やしても良いのでは（ただしお金のかかることです）。（男性、60～64歳、香取地域）
- 市政は、身近で分かり易いのですが、県政となると遠く感じあまり気にしていませんでした。世論調査を初めて行ない、大変感心を持つ事が出来ました。しかし県政と市政の分け方がよくわかりません。（女性、60～64歳、東葛飾地域）
- 設問を考えることは大変なことです。バランスよく問答が考慮されていると思います。県政への要望は多岐にわたりますが、要望の多いところからという行政のセオリーだと思います。少数意見も大切にしてください。（男性、40歳代、北総地域）
- アンケートそのものは、かんたんでした。それがどう生かされるのか楽しみなところです。県への意見は、多岐にわたると思われます。是非、生かされ、アンケートが生きたものになることを願っています。（女性、50歳代、北総地域）
- インターネットを利用できる人には、インターネット上で回答してもらってはいかがですか。また、紙の場合もマークシートの方がよいのでは。集計も早く、正確だと思います。（女性、30歳代、千葉地域）
- 何を目的に質問しているのか良くわかりません。県のPRなのか、住民が県に何を期待するのかを知りたいのか？散漫としか言いようがない。市と県が具体的にどのように責務を分担しているのかも良くわからない。（男性、50歳代、千葉地域）
- 何のための調査なのでしょう？私は農村地帯に住んでいますが、都市部はどんどん住みやすく整備されても農村部はどんどん住みにくくなっているような気がします。この調査で何がわかるのか、何を変えてくれるのか教えてください。（女性、60～64歳、東葛飾地域）